



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 107

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

「平成28年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部循環型社会推進課長

櫻井 博幸

平成28年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践する中、県の環境学習アドバイザーとしての活動やエコセミナーの実施など、本県の環境行政の推進に御協力・御尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

また、例年開催されているエコメッセにつきましては、平成22年度から実行委員長として、桑波田代表には御尽力をいただいております。市民・企業・行政など様々な主体の協働のもと、本県の初秋を代表するイベントとして盛り上がりを見せているところです。

ところで、現在、国を始め、首都圏の都県市においても、水素社会の実現に向けた取組を加速しており、千葉県では昨年、燃料電池自動車を公用

車として導入し、各種イベントへの展示等により、次世代エネルギーとして期待されている水素の普及啓発に活用しています。その一つとして、水素に関する県民の理解を深めることを目的としたエコセミナーを2月10日に予定しており、環境パートナーシップちばには、イベントの周知や運営に御協力いただいているところです。

環境学習等の推進に当たっては、多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境活動の推進と充実を目指す環境パートナーシップちばの皆様との取組が何より重要であり、ますますの御理解・御協力をお願いする次第です。

終わりに、環境パートナーシップちばの更なる御発展と、会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

環境パートナーシップちば代表 桑波田 和子

会員の皆さまには、希望に満ちた新年をお迎えになられたことと思います。

昨年は、地球温暖化に関する環境講座、エコメッセちば、印旛沼のナガエツルノゲイトウ駆除対策等、ご協力、ご支援いただき感謝申し上げます。

申年は、「物事が熟す」との言われがあるそうです。

昨年の暮れにパリで開催されたCOP21の報告では、持続可能な社会の実現に向けた取組の実行が国際間、地球市民に問われています。

当会は、環境保全を推進するために、市民・企業・行政等と協働(パートナーシップ)で取り組むことを主目的として活動してきました。平成9年に設立され、今年、設立後19年となります。今後の活動に向け、これまでの活動を評価し、会員のニーズをお聞きし、課題を出し、解決に向けてこれからの方向を再構築する時期です。この課題に向けてのワークショップを1月31日に開催し

ます。

また、近年「協働」の言葉が普通に使われていますが、真の協働が出来ているか?そのために、各主体が力を充分出し合っているか?

環境への取り組みは、環境団体だけでなく、福祉、子育て、街おこし等多様につながっているのか?このような課題についても検討します。

ワークショップのみではなく、会員皆さまに、アンケートを「だより107号」に同封し、ご意見をお聞きますので、ご協力をお願いいたします。

身近な地域の課題を解決し、千葉県、関東の視点を持ち、多面的につなぎ広げる、中間支援団体としての歩みを検討する1年にもしたいと思います。

当会が、会員の皆さまとともに歩むことを、さらに進めていきたいと思っておりますので、ご協力をなお一層よろしくお願い申し上げます。

ユネスコスクール全国大会に参加して

12月5日、「第7回ユネスコスクール全国大会 持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会」（主催：文部科学省／日本ユネスコ国内委員会）が、昭和女子大で開催されました。

ユネスコスクールは、ユネスコの理念を実現するために平和や国際的な連携を実践する学校であり、ESDの推進拠点と位置付けられています。日本国内では平成27年5月時点で939校となり、1か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。

（<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339976.htm>）

ユネスコスクールでなくてもESDに取り組む学校もたくさんあります。当日の参加者は、日本全国から集まった公立私立の幼稚園、保育園、小中高校大学など教育関係者が中心でした。そのほかに、企業や団体、行政など、多様な人たちが参加していました。午前中の全体会はホールに立ち見が出るほどの盛況で、午後は12分科会に分かれてテーマ別交流研修会が行われました。1分科会につき参加者は40～50人ほど。私は環境学習を学校現場で展開するにあたり教科との連携をもっと考えたかったため「教科横断、教科とのリンク（幼小）」に申し込んでいました。しかし、団体に所属している私が参加すべき分科会は「地域連

携、大学・企業・NPO・教委（行政）との連携（幼小）」ではないかと思い、急きょ変更をしました。事例発表は、福島県三春町中郷小学校の取組「なかさとっ子地域プロジェクト～コミュニティ・スクールの機能を生かして」。学校教育と地域をつなぐコーディネーターの存在や、学習の成果による子どもたちの変化が紹介されていました。他の参加者は、分科会タイトル通りの人たちで、それぞれが学校や地域において多様なネットワークを持ち、つなげている紹介をしていたのが印象的でした。

環境をテーマにした講演やイベントで学校の先生はあまりお会いしませんが、この全国大会には、教育関係者が圧倒的多数参加されていました。このような場に足を運べば、学校現場のニーズを知る参考になるはずです。環境団体の活動の多くは、地域に根差した活動です。特別な意識はなくても、その活動は、ESDだと思えます。「持続可能な開発（SD）」は、環境だけではありませんが、環境は学校でも取組みやすいテーマのようです。この全国大会に参加して、私たちの活動に、もっとESDの視点を持つことで、もっといろいろな人たちや学校現場とも、もっとつながれる可能性があると思いました。（文責 広田由紀江）

関東ESD学びあいフォーラム

～ESDで授業が変わる、地域がつながる 広がるみんなの可能性～

Elcoの会 広田 由紀江

平成27年11月28日、東京ウィメンズプラザホールで「関東ESD学びあいフォーラム2015」（主催：環境省関東地方環境事務所／関東地方環境パートナーシップオフィス）が行われました。事例発表者の一人として、昨年から引き続き浦安市立入船小学校で取り組んでいる「ESD環境教育モデルプログラム実証事業／環境人（エコんちゅ）になろう！」を紹介しました。

話題提供者は私を含め3人、それぞれの発表の後に実践のポイントを学びあうための分科会に分かれ、事例から深掘りするために、「団体の環境教育プログラムにESDの視点を取り入れるポイント」「学校の普通の授業にESDの視点を取り入れるポイント」「学校支援の立場からESDの視点を取り入れるコーディネートのポイント」のテーマ別にワークショップが行われました。

その後、全体会で話し合った内容が共有されたところ、どのグループも“学習指導要領”や“地

域とのつながり”“学習を提供した際の対価”など共通の話題があがっていました。私のいた「学校支援の立場から・・・」は、地域の人として学校とつながりたい団体の人たちと学校の先生、コーディネーターが参加していました。そこで、学校と地域の互いが信頼のおける関係性を築き合うためにどうすればいいかがまず検討話題となり、

「（地域と学校をつなげるために）学校文化を理解する人の協力」とが全員一致で合意したことが印象的でした。



いちほら市民大学

いちほら市民大学の環境コースで11月26日、12月3日の両日、市原市生涯学習センターにおいて、環境パートナーシップちばが環境まちづくりの行動計画をつくるワークショップを担当しました。

いちほら市民大学は、「まちで自分の力を発揮してみたい」、「仲間づくりをしたい」そのような要望に応えるために実施されている2年制の学習講座です。

今回わたしたちは、2年目の専門講座のひとつである環境コースにおいて、講座受講生の方々がこれら市民活動等で活動していくための行動計画をつくるワークショップを担当しました。

ファシリテーターとして参加したのは、桑波田、横山、川島、松橋の4人です。受講生は26名。11月26日の回には、5人の中学生が体験学習ということで参加してくれました。

ワークショップは、まず受講生がこれから活動してみたいテーマから、「ゴミの減量化」、「温暖化防止」、「耕作放棄地の整備と環境の保全」、「養老川をきれいにする」、「ゴミの資源化とリサイクル」の5つのグループにわかれ、行動計画の作成まで話しあいました。グループでこれから活動するとして、どのような内容をどのように活動していくかを話し合い、2日目には計画の発表までしてい

いただきました。

受講生からは、「仲間として話し合えたことがよかった」、「短時間でまとめることは大変だけれど、みんなで協力することができた」、「今までの講義が話し合うことで自分の中でまとめられた」と言っていました。

わたしはファシリテーターとして参加しましたが、受講生の熱い気持ちが伝わってきて、これからの受講生の活動をなんらかの形で応援していきたいと思いました。
(文責 松橋功)



第65回エコサロン「農業について考えませんか」報告記

2015年11月25日に千葉市民活動支援センター会議室にて第65回環境パートナーシップエコサロンが開催されました。テーマは「農業」で、富里市で農業を始めた息子さんを支援して定年退職後に農業者となった吉澤正さんの体験談をお聞きました。

農業をするにはまず農地が必要ですが、農地の売買には制約が多く、なにより、農家の方たちは土地を手放すことに抵抗が大きいため、なかなか大変だったが、富里市で畑地を手に入れることができた。新規就農者に対して、もう少し行政の支援があると良いと思う。

まず畑の傾斜などを整え、井戸を掘って、ハウスを建てて、トマト、メロン、スイカ、落花生を作っている。トマトとスイカはJAに出荷している。JAに出荷するためには細かな規格をクリアしなければならず、農薬も使わざるを得ない。

JAへの出荷のほか、規格外のものは直売所でも売る。ここでは、買いに来てくれる人への手ごたえや会話があるので、「このトマトは味があっておいしい」などと言ってもらえるのが張合いになる。

参加者から有機無農薬栽培についての質問が出ました。これに対して、実際には完全無農薬は簡単ではなく、手間もかかるので割高になる。JAには（規格が合わなくて）出荷できないので、独自の販売ルートがないとなかなかむずかしいという答えでした。農薬に関しては、現在使われている農薬は正しく使えば一応安全のチェック済みで、もし毒性などで問題があれば登録を抹消される。人間が予防注射を打ったり解熱剤を飲むのと同じで、農薬がすべてだめだとは思わない。もし農薬に害があるならば消費者の前にまず農業者に影響が表れるので、農薬に関しては農薬使用者の疫学調査が絶対必要だと考える、と答えていただきました。

このあと、参加者からの具体的な質問（スイカの受粉はどうしているのか？⇒ハチを使う、など）に答えていただき、吉澤農園特製の超濃厚トマトジュースを試飲し、殻付き落花生をおみやげにして、閉会となりました。

(文責 小倉久子)

環パと「ナガエ」のお付き合い

—そもそも からナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦まで—

いまこれを読んでくださっているみなさんは「ナガエツルノゲイトウ」とは何者なのかをご存じだと思いますが、これは南米原産のヒユ科の植物で、繁殖力が非常に強いためにほかの植物を駆逐してしまうおそれがあり、環境省の特定外来生物に指定されています。

印旛沼では1990年に故 笠井貞夫先生によって侵入が確認され、その後千葉県内では特に北総地域にじわじわと分布が広がっていきました。

環境パートナーシップちば(以下、環パ)では、印旛沼をきれいにする活動の一つとして花見川を活動のフィールドとしました。河口から印旛沼まで歩いて行く中で、2006年に花見川にナガエツルノゲイトウ(以下、ナガエ)が生息していることに気づき、2008年に千葉市に状況を報告しました。さらに、ナガエの群落拡大が目立ってきたため、千葉市、八千代市、水資源機構、市民団体等と2012年から花見川のナガエ分布調査を行ってきました。

その後、印旛沼流域水循環健全化会議の生態系ワーキングの活動において生態系に悪影響を及ぼす種の対策検討を行い、緊急に対策を要する5種の1つとしてナガエが選定されました。

具体的には、花見川の「最上流部」でもある水資源機構大和田機場に洪水の時に流れて来る大量のナガエ群落の被害を少しでも減らそうと、

2014年度から「ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦」を組織して、八千代市の桑納川においてナガエの分布状況をモニタリングするとともに、どうやったらナガエが効率よく駆除できるかの検討を行っています。

環パは、中間支援団体として千葉市や八千代市と県をつなぎながら、協働駆除作戦に毎回参加しています。平成28年度もこの協働駆除作戦は引き続き行う予定だそうですので、これまで以上にたくさんの方のご参加をお願いいたします。

「ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦」については、健全化会議のHP「いんばぬま情報広場」の「取り組み紹介」に詳しい活動報告が載っていますので、ご覧になって下さい。

<http://inba-numa.com/torikumishoukai/torikumigyuu/nagaekujo/> (文責 小倉久子)



(2016.11.2)桑納川富士美橋から上流方向を見る。両岸から水面に張り出しているのがナガエの群落

第5回印旛沼流域圏交流会のお知らせ

印旛沼流域圏交流会世話人 小倉 久子

印旛沼流域圏交流会は印旛沼・流域に関心を持つ人たちのゆるやかな集まりで、日常的にはメーリングリスト(愛称 ican ML)やブログ、Facebookで情報交換しています。でも、時々直接会って交流しようということで、このたび第5回印旛沼流域圏交流会を企画しました。

会員の方(icanのメールを受け取っていらっしゃる方)だけでなく、どなたでもご参加いただけます。6件の話題提供と懇親会の2部構成になっていますが、どちらかだけのご参加も可能ですので、ぜひお越しください。

詳細はいんばぬま情報広場のイベント情報などをご覧ください。

第5回印旛沼流域圏交流会
日時 2016年2月28日(日)
13:30~19:00
会場 千葉工業大学津田沼キャンパス6号館
(千葉県習志野市津田沼2-17-1)
JR総武線津田沼駅南口駅前
定員 100名
参加費 一般2000円・学生1000円
(懇親会不参加の場合は500円)
参加申し込み・問い合わせ(交流会事務局)
inbameeting@gmail.com

話題提供
①桑納川におけるナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦 / ②ドローン・定点カメラによるナガエツルノゲイトウの分布・動態観測 / ③霞ヶ浦の植生再生“これまで”と“これから” / ④印旛沼流域の湧水の硝酸性窒素濃度の状況—千葉県の湧水との比較— / ⑤流域水質管理に向けた流出濃度低下対策—主に農業由来の面源対策について— / ⑥写真を用いたKJ法(PKJ法)の提案—フィールドでの実践的環境教育をらんで—

『つなげよう、支えよう 森里川海』

環境パートナーシップちば 江口 元治

2015年12月20日(日)に東金市役所会議室において環境省主催による「ミニフォーラム in 東金・九十九里」が開催された。年迫る多忙な時期にも関わらず、東金市、九十九里町の方々が多く参加され、会場がほぼ一杯になる盛況であった。地域における日頃の環境問題に対する意識の高さの証しと思われる。

主催者(環境省)挨拶、東金市長、九十九里町長等の挨拶に続き、元千葉県立中央博物館副館長の中村俊彦氏による「北総台地から谷津、九十九里平野、太平洋をつなぐトキめきのまちづくり」という特別講演があった。東金(ときがね)という地名はトキに由来するとのことであった。

次に地元団体の「ときがねウォッチング」代表世話人鈴木淳氏(東金市在住)が、活動取り組みを報告した。谷津の耕作放棄水田の整備を行い、地元の小学校を対象に田植え、稲刈り体験学習、餅つき大会、ピオトープづくり、谷津に棲む生物の観察会などの活動を行っている。自然と触れる場や体験できる機会、次世代につなげる和の重要

性を訴えているように感じた。

活動報告後は、行政、一般者を交え5つのグループに分かれてディスカッションが行われ、参加者全員の、日頃の環境問題に熱弁を振るっている声が聞こえた。環境は、難しく考えず日常の身の回りから行っていこうとの声が印象に残った。

最後に環境省審議官の挨拶で閉会となった。

参加者のインタビュー(感想)

- ・地域の人が自然環境活動を日常行っている。感銘した。(20歳学生)
- ・海に注ぐ山の湧水。河川の学習で海上汚染を防ぎたい。(60代男性)

ミニフォーラム in 東金・九十九里は、参加者が自然への親しみを持つ必要を感じさせられる会議であったようだ。



レジ袋が地球を滅ぼす??? —海ごみシンポ報告記—

2015年12月19日に東京都内で行われた「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」主催の「海ごみにもなってしまう、使い捨てのレジ袋をどう減らす!」というシンポジウムに参加してきました。

まず、東京農工大学大学院教授の高田秀重先生の「プラスチックスープの海—レジ袋の屑入りの魚介類を食いたいですか?」というかなり煽情的なタイトルの講演です。内容としては、2015年10月にNHK クローズアップ現代で放映されたものと重なることも多かったのですが、より詳しい最新のデータを交えてのお話は大変興味深いものでした。

マイクロプラスチック(MP)は海に流れて来たレジ袋や発泡スチロールが海の中で細くなったもののほか、最初から細かいものもあります。スクラブ洗顔料のツブツブや、洗濯した時に出る合成繊維(アクリル毛糸など)の細かい繊維などです。このようなMPは海水中にわずかに溶けている(有害)化学物質を吸収して高濃度(100万倍!)に濃縮するので、MPをプランクトンと思って飲み込む魚や海鳥たちは高濃度の化学物質を体内に取り込むことになるのです。

このようなMPというのは遠い外国の海だけではなく、実は身近にあります。写真はお話の途中で回覧された、お台場の砂に交じっているMSです(水面に浮いている。プラスチックなので水より軽い)。これは、特別のことではなく、どこでもこのような感じで砂に混じっているのだそうです。

三重大学副学長の朴恵淑先生のお話は「産官学民の連携で進む三重県のレジ袋ゼロ運動」で、三重大学の中でレジ袋をやめてマイバッグ持参の運動を起こし、さらにこれを伊勢市にも広げたのだそうです。2016年に開かれる伊勢志摩サミットに対し、「お金も落とすが気を付けないとCO₂もおおいていく」と捉えていらっしまったのには感心しました。

この他、全国の海岸漂着ゴミの実態、チェーンストア協会の努力、千葉大学の学生さんのマイボトル持参運動、など、とても盛りだくさんな情報を得ることができました。

(文責:小倉久子)



→お台場の砂に水を注ぐと、MSが浮いてくる。

『市民が地球温暖化問題を学び、きちんと向き合い、真剣に考える』

講座報告

日時 1月31日(日) 10:00～12:00
会場 千葉市生涯学習センター

今年度、千葉市地域環境保全自主活動補助金事業として企画した3つの環境講座の締めくくりとして、「地球温暖化の影響と異常気象」をテーマにIPCCレポートコミュニケーター・元気象庁お天気相談室勤務の矢野良明氏による講演会を開催しました。

温室効果のメカニズムの説明。CO₂濃度の推移や平均気温偏差他のデータより地球温暖化傾向にあることは間違いないが、すべての気象現象が温暖化に起因すると判断するには相当困難であること。気象庁では30年に一度起こるかどうかなどといった現象を異常気象という。例えば、温暖化により竜巻発生が増えたと思われているが、実は過去から同じように発生していて、観測能力が高まった結果検知件数が増えた点も考慮する必要がある。積乱雲の発生・エルニーニョ現象・温暖化といった個々の気象現象を一律の評価軸ではなく、空間と時間の両方のスケールから評価するべきであり、多面的に見る必要性をお聞きしました。

講演後、参加者から地球温暖化に対し“やっていること”“やろうとすること”をお聞きしました。“関心は高いのに、取り組み方が分からない”や、“言いつばなし、聞きつばなし”の解決のために、

取り組みとその効果を具体的に示す工夫が必要なることを確認。その後、具体的な取り組み事例発表がありました。幼稚園で“ごみの分別”、主婦向け“電気料金の分析から削減工夫”等のプログラムや、電気工事業者とタイアップしLED化を促進、集合住宅での太陽光発電の屋根貸し推進、電力自由化に対し選択ポイントを提示する等のしくみが披露されました。

今回の企画を通じ『温暖化対策』の取り組みを共有する機会を継続して持つことの必要性を改めて感じました。



(文責 川島謙治)

『エネルギー問題と水素社会の幕開け』講座報告

日時：平成27年12月5日(土)
13:30～16:00

会場：松戸市民会館
主催：松戸・アースコン・マツド(協働事業)

エネルギー問題は、地球温暖化防止に向けて深刻な課題です。今回は、松戸市の12月地球温暖化防止月間 成人環境講座で、「エネルギー問題と水素社会の幕開け(地球温暖化を防ぐには)」の講座をお聞きしてきました。

まず、講座のオリエンテーションとして、「地球温暖化の現状と地球にやさしい行動宣言」について、アースコン・マツド事務長小堀氏より説明がありました。

行動宣言では、マイバック自作教室開催、子ども環境フェスティバル、小中学校への出前講座、夏休み子どもエコ教室、省エネ実践講座等の多様な行動を実行されていることがわかりました。

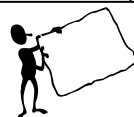
講演は、染井正徳氏(金沢大学名誉教授)から「エネルギー問題と水素社会の幕開け」についてです。CO₂の発生を伴わず水素を用いて水だけを排出するクリーンな燃料電池を利用する「MIRAI」を始め、都市社会のエネルギーを水素で賄う、環境にやさしい、水素社会の実現が現実になろうとしているお話でした。まず、産業革命では、温室効果ガスを多量に放出し、再生エネルギーの利用では、温室効果ガスの放出抑制と削減を目指した。さらに、温室効果ガス発生ゼロを目指し、水素の利用が現実となり、2015年は水素社会の到来「水素元年」の幕開けだそうです。

90分間の講演でしたが、多様なエネルギー、電気エネルギーの問題点、工業的な水素の製造方法等と広範囲な内容で、良く理解するのに、再度お聞きしたいと思いました。最後に「奇跡の星、地球、活かすも殺すも、我々の活動による」のメッセージはインパクトがありました。

(文責：桑波田和子)

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 31 —

おききました！ この人・この団体



早船里山の会

私たち、早船里山の会は山武市の国道126号線沿い旧成東松尾間の北端に位置し、総面積は3.2ヘクタール、会員数は33名です。

活動前の里山は農地や森林が荒れ放題になっており、篠竹等がはびこり、人の手入れがされないため荒廃していました。これは地域としても大きな損失であります。早船地域で生存してきた動植物の復元や保存をしないと無くなってしまいう動植物もあり、祖先から自分たちが引き継いだすばらしい自然形態を次の世代にバトンタッチする義務があると感じ、出来る限り活動をするのが自分たちの生きた証になる、今が最後のチャンスであるという思いがありました。

『早船地域の里山を中心に森林の育成及び保全ならびに景観整備を行い、きれいな水の確保と人々が楽しく生きる憩いの場を創る』をコンセプトに、会として平成17年から計画し、正式に平成18年1月から活動を開始しました。

活動にあたっては地元有志の方々、大富小学校、山武市、山武市社会福祉協議会、JA山武郡市、大里綜合管理株式会社、城西国際大学、千葉県等たくさんの方々のご理解とご協力を得て活動してまいりました。

当初の活動として農地や山林の日当たりを良くするため、篠竹や雑木林を3年で切り開きました。その結果として日当たりを良くすることによってキンラン、ギンラン、山ユリ、スミレやクマガイ草が出てきました。また、地域の人たちや子供たちに里山に興味を持ってもらうために自分たちの手で桜やアジサイ、モミジ、その他秋の七草等約1200本を植栽してもらいました。桜やアジサイの木も見事に大きくなり、花も沢山つけ、ウグイスやホオジロ等小鳥も集まり、美しいさえずりが聞こえ静かな空間で心が癒されます。

また、子供たちに昔の自然にもっと興味をもってもらいたい、体験を通して昔の暮らし、生活はどのようであったかを知ってもらいたいという観点から関係する他の



会長 實川 正和

団体の依頼で小中学生から大学生、社会人の方々が里山でのボランティア活動、体験学習の場として提供することで、環境整備も進んでおります。

現在の活動は主に春から秋にかけて里山の下草刈りを行っております。冬季は間伐、枝打ちを毎月第3土曜日に活動をしています。また、地域の人たちに活動を知っていただきたい、親しみのある里山となっていきたいということで6月にアジサイ鑑賞と里山散策を行っています。アジサイ鑑賞と里山散策はこの近辺では自然景観として親しんでもらえる場所が少なく、晴天時、里山の大地から見下ろす九十九里平野の全景はすばらしく、一見の価値があります。里山散策で森林浴をしてストレス解消をしてもらいたいという目的で始め、毎年、たくさんの方が参加されています。10月には里山コンサートを開催していますが、年々増加傾向にあり、一昨年は200名の参加者に「自分が主役」となって、童謡や歌謡曲等を参加される方が歌っていただき、午後は日本舞踊、フラダンスを見て、太鼓や小学校吹奏楽部等の演奏を楽しみ、昼食は秋の味覚さつまいもやつきたての餅を食べ、毎年参加者から高評価をいただいております。

2月には地元の大富小学校4年生の1/2成人式（10歳）の記念に桜の植樹を行い、子供たちから感想文を一人一人書いて送ってくれるなど徐々に親しまれる里山になってきていることを実感しております。最近では城西国際大学と連携して里山で生息する動植物で絶滅危惧種の調査、保護活動にも協力をしています。

今後も自然を大切にする気持ち、子供から老人までここに生きる人たちの心を癒すとともに話し合いの場を設け、絆や思いやりのできる活動を実施していきたいと思っております。

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

12月運営委員会

日時 12月9日(水) 18:00~20:55

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・だより 106号印刷・発送
- ・新宿公民館講座(11/17)
- ・エコセミナーちらし発送(11/25)
- ・11月エコサロン(11/25)
- ・いちほら市民大学(11/26)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(11/27)

【協議】

- ・だより 107号
- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金
- ・エコサロン(2/15) ・エコセミナー(2/10)
- ・法人格について ・2016年度活動方針 ・その他

1月運営委員会

日時 11月11日(水) 18:00~20:00

場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・江守氏講演会(10/15) ・Eポート千葉大会(10/17)
- ・印旛沼流域環境体験フェア(10/24)
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(11/2)
- ・手賀沼流域フォーラム全体会(10/17)
- ・東京湾大感謝祭(10/24・25)

【協議】

- ・千葉市地域環境保全自主活動事業補助金
…学習会とワークショップ(1/31)
- ・11月エコサロン(11/25)
- ・千葉市新宿公民館講座(11/17)
- ・いちほら市民大学(11/26・12/3)
- ・エコセミナー(2/10)

お知らせ

景観セミナー「歴史的建造物を活かした“まちづくり”～魅力あるまちづくりのために、明治・大正・昭和を生きぬいた建造物を再生しませんか～」

日時 2016年2月27日 13時30分～16時30分

会場 千葉市ビジネス支援センター13階会議室
千葉市中央区中央4-5-1 Qiball(きぼーる)

主催 千葉県

定員 100名(申込先着順)入場無料

内容

基調講演「まちの魅力の見つけ方～記憶と再生のために～」

講師:渡邊義孝氏(一級建築士/尾道市立大学非常勤講師)

事例紹介「歴史的建造物を活かしたまちづくりと流山市の事例」

講師:古川敏夫氏(公社 千葉県建築士事務所協会景観整備機構)

事例紹介「歴史的建造物の保存・活用」

講師:井戸一郎氏(流山市流山本町・利根運河ツーリズム推進室)

申込 「2月27日参加希望」参加者全員の氏名・お住まいの市町村・連絡先(電話番号・ファックス番号、または電子メールアドレス)と明記

申込先 千葉県公園緑地課景観づくり推進班

FAX:043-222-6447 メール:keikan2@mz.pref.chiba.lg.jp

うらやす市民大学 環境特別講座

日時 2016年2月20日(土) 13時30分～16時30分

会場 うらやす市民プラザ WAVE101 中ホール
JR新浦安駅前 ショッピングプラザ新浦安4階

主催 うらやす市民大学

協力 温暖化防止うらやす

定員 80名(申込先着順)入場無料

内容 ①「気候変動リスクと人類の選択」

講師:江守正多氏(国立環境研究所 地球環境研究センター室長)

②「パリ協定の意義と今後の温暖化対策」

講師:久保田 泉氏(国立環境研究所 社会環境システム研究センター主任研究員)

申込 電話かメールで(住所・氏名・電話番号)

浦安市民大学あて申込

■電話:047-351-4811

■MAIL:shimindaigaku@city.urayasu.lg.jp

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先:(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール:info@kanpachiba.com

会費納入先:環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		